

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

西ユニット

事業所番号	0173700287	
法人名	有限会社 ファニティ	
事業所名	グループホーム SORA	
所在地	伊達市長和町609番地	
自己評価作成日	令和 元年 6月 12日	評価結果市町村受理日 令和1年8月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173700287-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和元年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様個々のやりたい事をみつけ、共にやっつけていける様にしている。(草むしりやお菓子作りなど)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、伊達市の西方向に位置している長和町の自然豊かな郊外にある2階建て2ユニットのグループホームである。敷地が広く、建物前には大きな駐車場と広い菜園があり、利用者の散歩や外気浴に最適である。玄関に入ると拭き抜けの大きな多目的ホールがあり、左右対称にそれぞれ2階建てのユニットがある。リビングや食堂も広くゆったりしており、利用者は日中殆どリビングで寛いでいる。法人は、居宅介護支援事業所や通所介護事業所を同市で運営しており、長年の実績が評価され、平成29年5月に以前の運営会社から事業を引き継ぎ6月から装いも新たに当事業所をオープンした。事業所名のSORAは遠く離れていても何処かであなたと繋がっています。～そんな想いを紡ぐ場所～と謳っており「自分の家のような自然体で、明るい笑いの絶えない和みのホーム」を目指している。多目的ホールでは、認知症カフェやボランティアによる琴やピアノ演奏会など地域へ開放しており、笑顔の明るい感じの事業所で、認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に情報交換、意見交換を行い実践につなげていけるよう様努力している。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するよう努めており、職員は職員会議で振り返り、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	(地域の高齢化の現状などもあり) あまりできていない。	町内会の関わりはこれからであるが、小学校の学芸会を見学したり、多目的ホールを開放して認知症カフェを開催しており、事業所主催の夏祭りと同開催したり、ボランティアによるギターの演奏会や子供たちのチアダンスなど地域との交流が少しずつ進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを通じて少しずつ行えてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見を職員間で共有し、どのようにしていくか話し合いし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族や町内会役員、市役所職員が参加して定期的開催し、運営状況の報告や情報交換、意見交換などを行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、意見をいただいている。	運営推進会議に市職員が参加しており、定期的に意見交換をしている。また、保護課担当者も定期的に訪問があり、都度情報交換して市役所との連携をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は委員会を設置し、定期的にユニット会議を開催し、各ユニットの現状や、どのような事が拘束ににあたるのか皆で情報共有し拘束防止に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して、指針やマニュアルを整備して、3ヶ月に1回開催して検討会を行っている。また、外部研修会に定期的に参加したり、内部研修会を行うなどして、身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、情報共有、事例の共有し、見過ごし等ない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	状況に応じて対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を用いて説明し、質問を確認しながらご家族の不安や心配に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただいたり、外出レクの時など、ご家族に参加していただいた時に意見・要望をいただき全体会議で職員に伝え、運営に反映するようにしている。	ホーム全体と利用者個々を掲載したホーム便りを毎月発行して、家族に報告している。玄関には、意見箱を設置していつでも意見を聞く用意をしており、家族からの意見や要望は来訪時に殆ど聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議や全体会議の時に職員の意見や提案を聞き、反映させている。	ユニット会議は適時に行い、全体会議を毎月開催している。個人面談は、年1回年度末に実施しており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をしてもらい、面談時に成果などを確認し、出来るだけ給与に反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行っていて、法人外のない研修は案内が来た時に周知させ、受講しやすいよう勤務体制にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	入居者を連れ、他の施設の認知症カフェに参加したり、当事業所の認知症カフェに来ていただいたり相互訪問している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に関りをもち孤立しない様スタッフが間に入り、信頼関係作りに務めている。また、スタッフ間の情報共有もやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には入居者の状況など話し合いながらご家族との話す機会を作り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報について、ご本人・ご家族とよく話し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にすること者同士「ありがとう」と感謝の言葉を忘れず伝えていき、そして良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なんでも相談してもらえる様に信頼関係作りに努め、一緒に支えていける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などを通じて関係が途切れない様に努力している。	友人や知人は時折来訪し歓談している。住んでいた自宅やお墓参りは、家族と一緒にっており、また、馴染みの店舗での家族との外食も勤めるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ同士情報交換し入居者が孤立しない様に努めている。小さな事柄でも見逃さない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、お元気に退去された方がいない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向の把握はご本人と話したり、日々の生活の中で気づきを大切にしながら努め検討している。困難な場合も少しでもご本人に沿える様に検討している。	日常生活のケアの中から、利用者の思いや希望、意向を把握するよう努めている。困難な場合でも、本人の意向に沿えるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などアセスメント表の活用やご家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士情報の4共有、意見交換等を行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、現状に合った計画書を作成している。	前もって、本人や家族の意見や要望を聞いて、担当者会議を開催し、各自の情報を収集し検討して、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小もさな変化にも皆で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて柔軟な対応ができる様、スタッフの対応を検討し、サービスの多機能に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在、うまく地域資源を活用できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況を把握しながら、ご家族と相談しつつかかりつけ医を決め、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の訪問診療は隔週1回で、看護師は日曜日以外は常勤で対応しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に夜間帯の送りなど、日常的に情報を伝え、相談し、個々の入居者が適切な受信や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、安心して治療できるよう、日々の情報を病院に伝えている。また、退院後も安定して生活できるよう情報をいただける関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には、訪問診療医に家族へ終末期についての説明をもらい、ご家族の希望を聞き方針を共有し、終末期の支援を行っている。	重度化や終末期については、入居時に説明して同意を得ている。重度化した場合は、本人・家族と主治医が説明協議し、看取りの場合は、主治医と看護師と連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。	火災の避難訓練は、消防署の指導の下、備蓄や備品を整備して、年2回定期的に実施している。避難先は、指定場所となっているが、火山噴火の場合を想定し、今後新たな避難先を検討していく。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。	人格の尊重とプライバシーについては、事業所内で定期的にプライバシーの保護についての研修会を行っており、特に声掛け等は職員間で注意するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人にどうしたいか訊くようにし、自己決定できる様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	定期的にはスタッフ間で話をし、業務優先ではなく入居者様に沿って支援していけるよう検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、一緒に準備や片づけを行っている。	昼食は業者委託だが、朝と夕食は職員が担当している。利用者は、下準備や片付けなど一緒に手伝っている。行事食や外食は、流しソーメンや手打ちそば、回転すしやソフトクリームなど好みの食事を支援している。	行事食や外食は利用者の好みの食事を提供しているが、たこ焼きやお好み焼きパーティーなど利用者と一緒に楽しんで作る行事食の検討を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	仕上げ磨きの実施や歯の状態などを把握し、口腔ケアを子なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人の排泄のパターンを把握し、失敗しない様な声掛けを行い、排泄の自立に向け支援している。	利用者個々の記録簿から排泄パターンを把握し、一人ひとりの仕草や表情などを観察し、声掛け誘導してトイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物形態や水分摂取の仕方を工夫し、便秘予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人一人の状況を見て、タイミングを合わせ入浴できるよう支援している。	入浴は週2回で、日時等も決まっているが、実際は利用者個々の状況に合った入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは無理に臥床させずに、眠たくなるまで一緒に過ごすなど、状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師に指示をもらいながら、服薬の支援を行い、症状の変化に留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、出来るだけご本人の能力を生かせるよう支援している、また、支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては、ご家族に協力をいただきながら支援している。	日常的に敷地内や近隣の散歩、外気浴を支援している。外出行事は、お花見や果樹園、回転寿司やレイクヒル・ファーム、道の駅など家族の協力も得て楽しみな外出の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状として現金は所持しておらず、また、買い物を出るところが近くにはないため支援できていない。1名のみご家族からのご要望にて所持しているが、現段階としてお金という認識が乏しく使える状況ではない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字は読めるが書くことが困難な入居者さまが殆どで、手紙のやり取りは行えていないが、電話はご本人の希望によりかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、風物詩のオブジェを飾ったり、季節を感じられる空間作りを工夫している。	共用空間は、玄関を開けると吹き抜けの多目的ホールで、天窓があり明るく広々としており、認知症カフェを開催したり、歌やラジオ体操、風船バレーなど行っている。食堂やリビングはも広くゆったりしており、採光や風通しもよく、利用者は居心地よく寛いで過ごしている。廊下も幅広く、床暖房で暖かい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ホールなど気の合った入居様同士自由に過ごせる空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具を配置したりと居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は、広く、一間ほどの大きな収納があり、棚やベットも設置され配慮した造りである。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレには目印、靴箱には名前、ホーム内にも自由に歩行ができるよう手すりも設置しており、出来るだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		